

1. 評価結果概要表

平成 21年 4月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	2092600028		
法人名	株式会社新宅組		
事業所名	のぞみの里		
所在地	長野県木曾郡木曾町5569番地 (電話) 0264-21-3131		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	平成21年4月22日

【情報提供票より】(21年 2月 1日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤9人	非常勤1人 常勤換算9.15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	3 階建ての	2 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要 (2月 1日 現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3名	要介護2	1名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5		要支援2	
年齢	平均 81.5 歳	最低 69 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長野県立木曾病院・原内科医院・鈴木歯科医院・金松クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は木曾路の福島関所跡近く、木曾川沿いの景観の良い住宅地に建設されており、一部3階建ての鉄骨造り2階建て、準耐火造りでスプリンクラー等を設置し、火災対策がされた全館床暖房の事業所である。1階では小規模多機能型居宅介護支援が行われ、2階でグループホーム「のぞみの里」がみんなのねがいと役割のもと、家庭的な雰囲気の中で、その人らしく生き生きとした共同生活が行われている。開業して1年4カ月地域密着型サービス事業として地域と共に歩み続けている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価は、今回が初めてである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者の元、職員全員が一丸となって開かれた事業所作りを目指しており、今回の自己評価にも各項目ごとに意見を出し合い、取り組みの事実による検討がされ問題点の発見に努めた。全評価項目を施設の課題として取り上げサービスの質の向上を目指したケアに向けての取り組みが行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進協議会は、東京より専門者を委員長に向かえ2カ月ごとに開催されており、多様な方々を委員に依頼をされている。その都度諸事業報告をして、協議、意見交換をするなか、専門員指導のもと、協議結果は介護現場に知らせ行き届いた介護サービスに努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ご家族の事業所へ訪問の時を利用し、できる限り情報交換に努めているが、今以上にご家族へのかかわりを積極的に実施し、利用者の日常生活の情報を提供すると共に、事業所介護への意見・苦情をくみ上げて、利用者やご家族との良好な関係の形成に努め、信頼関係を構築することを望みます。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	事業所は木曾路の集落内にあり、住み慣れた場所と同様に地域協力が得られると考えられる。事業所独自の地域交流の規定が作成されており、地域の皆さんと共に暮らすことを目標にして、地域の開催行事に参加し、日々の交流に努められ、交流の輪も徐々に広がりつつある。今後も利用者と事業所が地域の人々と連携を図って行くことが望まれる。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	木曾の地に生まれ、この地に育ち又縁あってこの地に移り住んだ人が、この地域でこれまでと同じように暮らし続けることを理念とし、ご家族や職員に徹底するため、事業所内に掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営者と職員は、開設者の思いである5項目の目的のもと、職員一人ひとりが理念を自然に実践しており、目くばり、気くばり、心くばりを第一に、心に寄り添う介護に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治体や地域の行事への参加、町の文化祭への出品、関所祭りの参加又地域中学校の体験学習や、親子の訪問による歌や演劇の受け入れなど、協力と参加要請をし地域交流がされている。地域交流責任者がおり、地域に根ざした交流が進められている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者と職員は、自己評価の意義を良く理解し、職員全員が各項目ごとに検証し、取り組みの事実と取り組んでいきたいことを具体的に検討した。今後、具体的改善に向けて取り組んでいく姿勢が伺われた。		

のぞみの里 グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進協議会には、各種団体委員と特別委員として学校の先生などを選任し、すでに6回(2カ月に1度)開催され、意見交換も行われ会議の状況は職員に報告している。今後は職員も参加してサービスの向上に取り組んでいく計画である。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町の開催する連絡会議には欠かさず出席をしサービスの質の向上に取り組んでいる。1階の小規模多機能型居宅介護事業所と共に、町の介護利用者の生活支援を行っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族の事業所訪問時は常に利用者の日々の生活状況や健康状態を知らせている。行事風景や事業所のお知らせを伝える「のぞみの里」ニュースは28回をこえており、さらに電話等により連絡を取り情報交換に努められている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>開所以来まだ日が浅くご家族の意見・苦情の提起はないが、事業所として苦情受付の体制は整っている。懇談により得たご家族の意見を管理者会議で検討して改善に向けて取り組んでいる。</p>		<p>ご家族への情報提供時に意見交換がされているが、遠方のご家族や交流の薄いご家族などの意見と苦情を、言いやすい環境にするための工夫をし、出された意見を事業所運営に反映されることを期待します。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の担当制度を取り入れているが職員であれば誰でもが接することができるよう対応し、職員の入れ替わりがあっても利用者にダメージを与えないよう情報交換に努めている。</p>		

のぞみの里 グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への出席は出張扱いにし研修を受ける機会の確保がされている。また自主的に参加する研修等の参加においてはシフトの調整を行うなど、職員の教養育成に積極的に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県宅老所連絡会に参加しているが、地域に同業者がなく交流のネットワークがとれず、交流や研修の取り組みができなく不十分なところがある。</p>		<p>遠方でもホーム同士の相互間の連絡による情報交換の機会を持ち、交流と研修により、課題の打開に前向きに取り組んでいくことを期待したい。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>事業所の内容を丁寧に説明し、訪問により利用者の状況を良く把握すると共に、お試し入所などにより、利用者のご家族が納得できるサービスが受けられるよう配慮がされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者が自分の家にいるようにゆったりと毎日の生活を過ごしていけるよう支援している。又利用者の生活歴を良く把握して、その人らしく一体感を持つように努められている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の生活の中で気づくことや、変化を話し合い、職員全体で共有し、利用者の一人ひとりの思いや意向にそった支援をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族と利用者の意向により、介護計画作成担当者が作成した計画を基にカンファレンスを行い、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3カ月毎に定期的な見直しを行い、利用者の状況変化があった場合は、その都度見直しがされている。ご家族の面会時に要望や意見を聞いて、それらを取り入れた介護計画が作成されている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師を職員として配置した医療連携体制があり、ご家族の都合に応じて通院への付き添いを行い、早期退院に向けて医療等との連携を図るなど、事業所の多機能性を活かした支援をしている。</p>		

のぞみの里 グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	利用者個々のかかりつけ医師と、事業所指定の協力医療機関に移送支援をし、受診による適切な医療に努められている。		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	重度化や終末期ケアの支援について医療機関と連携して必要な支援をしている。ご家族や利用者の希望と事業所の方針との話し合いが出来ているかが、不十分なところがある。		事業所として、重度化や終末期に向けた介護方針を、職員とも十分に話し合い共有化して作成し、利用者やご家族に充分説明して、希望や思いのズレがないよう対応することを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	利用者のプライバシーを損ねることのないような言葉使いや、個人記録等の書類の取り扱いについて尊厳や権利を守るよう徹底を図っている。		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	利用者の一人ひとりがその日の生活を自由に楽しめるよう支援し職員からも利用者に添った余暇の過ごし方を検討、提案しており、食事の前に全員による行事を行うなど、利用者の希望に添った支援をしている。		

のぞみの里 グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者と職員が一緒のテーブルについて3食とも同じものを食べている。利用者に出る範囲で食事の手伝いを依頼している。利用者の食事に要する時間はまちまちであるが、ゆっくりと会話をしながら食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午後、4～6人が利用し、利用者の希望により、ゆったりとした入浴に心がけている。また炭酸泉を利用したり、足浴なども行い入浴が楽しめるよう支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に食事の配膳や衣類の片付けなど出来ることをお願いしている。週3回(月、水、金曜日)食材の買出しにも同行してもらうなど利用者のこれまで過ごしてきた暮らしに合った支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	要望に応じての個人の買い物、利用者の体調に合わせての近くの公園や中学校までの散歩等の支援がされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室やグループホームの入り口に鍵の設置はない。職員が気遣うことによる努力で安全確認の支援に努めている。		

のぞみの里 グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>事業所が市街地にあるため、地域消防団と近所の人々の参加による防災訓練をされ、事業所の災害シミュレーションなどを取り入れた防災訓練がされており、災害対策への対応は常に行われている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者の病状に応じた栄養バランスを協力医療機関の栄養士の指導により事業所の職員が献立を作成している。また医師の指導を受けての食事支援をしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用ホールを広くとり、玄関、廊下、台所、居間が一体となっている。空間は季節に合った手製の飾りつけなどによりレイアウトされ、手作りのテーブルがあり利用者の作品も展示されており居心地よく工夫されていた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間の表札はご家族による手製のものがかけられており、扉も一人ひとり異なった形で違いがわかるようにされている。室内は利用者の自由な空間作りがされ、木曾川の流れの音も聞こえて生活感が感じられた。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。